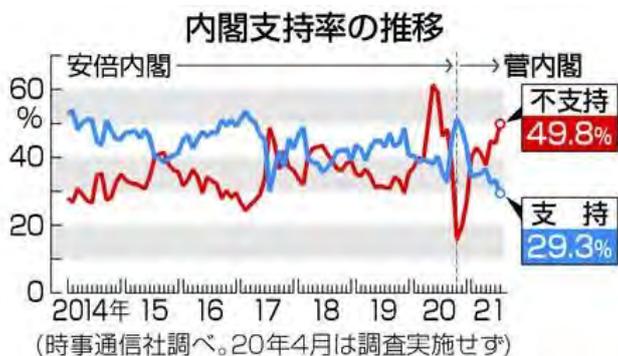


2021年7月19日～16日

世論調査（時事、毎日、共同、朝日）

菅内閣支持29.3%、発足後最低 初の3割割れ—時事世論調査

時事通信 2021年07月16日 19時04分



政党支持率の推移

	7月	6月	5月		7月	6月	5月
自民党	21.4%	22.8	21.4	国民民主党	0.5%	0.5	0.5
立憲民主党	4.5	2.9	4.4	社民党	0.2	0.2	0.2
公明党	2.5	3.7	2.6	れいわ新選組	0.3	0.2	0.2
日本維新の会	2.0	1.2	1.9	嵐の党	0.1	0.1	0.2
共産党	1.8	1.7	1.5	支持なし	63.9	63.2	64.8

時事通信が9～12日に実施した7月の世論調査で、菅内閣の支持率は前月比3.8ポイント減の29.3%で、不支持率は5.6ポイント増の49.8%となった。政権発足後、支持率が3割を切り「危険水域」とされる20%台に落ち込むのは初めて。逆に不支持率は最高となった。

【点描・永田町】「9月解散」はコロナと五輪次第

支持率3割割れは「加計学園」問題で安倍政権が揺れていた2017年7月以来4年ぶり。

政府は今日8日、東京都に4回目の緊急事態宣言発令を決定し、酒類提供店に対する「圧力」問題も起きた。日常生活に制約が続く不満や五輪開催への懸念が支持率に影響したとみられる。菅内閣の従来の最低値は3度目の緊急事態宣言の期間延長、対象拡大が決まった5月の32.2%。

新型コロナウイルス感染拡大をめぐる政府対応は、「評価しない」が前月比4.0ポイント増の59.1%、「評価する」は同0.5ポイント減の22.7%。「どちらとも言えない・分からない」は18.2%だった。

菅義偉首相が感染対策の「切り札」と位置付けるワクチン接種の進捗（しんちやく）に関しては、「遅い」が71.5%と、「順調」の17.7%を大きく上回った。「どちらとも言えない・分からない」は10.8%。

内閣を支持する理由（複数回答）は、「他に適当な人がいない」が最多の12.1%。「首相を信頼する」7.8%、「首相の属する党を支持している」4.4%が続いた。支持しない理由（同）は「期待が持てない」27.7%、「リーダーシップがない」25.3%が双璧で、3番手は「政策が駄目」18.4%。

◇与党支持も減、立民上昇

政党支持率は自民党が前月比1.4ポイント減の21.4%、公明党が同1.2ポイント減の2.5%。これに対し、立憲民主党は1.6ポイント増えて4.5%となった。3月の4.8%に次ぐ数値。

以下、日本維新の会2.0%、共産党1.8%、国民民主党0.5%、れいわ新選組0.3%、社民党0.2%、嵐の党0.1%だった。「支持政党なし」は63.9%。

調査は全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は62.9%。

菅内閣支持29.3%、発足後最低 初の3割割れ 時事世論調査

時事通信 7/16(金) 17:04 配信



菅義偉首相＝15日、東京・永田町

時事通信が9～12日に実施した7月の世論調査で、菅内閣の支持率は前月比3.8ポイント減の29.3%で、不支持率は5.6ポイント増の49.8%となった。【図解】内閣支持率の推移 政権発足後、支持率が3割を切り「危険水域」とされる20%台に落ち込むのは初めて。逆に不支持率は最高となった。支持率3割割れは「加計学園」問題で安倍政権が揺れていた2017年7月以来4年ぶり。政府は今日8日、東京都に4回目の緊急事態宣言発令を決定し、酒類提供店に対する「圧力」問題も起きた。日常生活に制約が続く不満や五輪開催への懸念が支持率に影響したとみられる。菅内閣の従来の最低値は3度目の緊急事態宣言の期間延長、対象拡大が決まった5月の32.2%。新型コロナウイルス感染拡大をめぐる政府対応は、「評価しない」が前月比4.0ポイント増の59.1%、「評価する」は同0.5ポイント減の22.7%。「どちらとも言えない・分からない」は18.2%だった。菅義偉首相が感染対策の「切り札」と位置付けるワクチン接種の進捗（しんちやく）に関しては、「遅い」が71.5%と、「順調」の17.7%を大きく上回った。「どちらとも言えない・分からない」は10.8%。内閣を支持する理由（複数回答）は、「他に適当な人がいない」が最多の12.1%。「首相を信頼する」7.8%、「首相の属する党を支持している」4.4%が続いた。支持しない理由（同）は「期待が持てない」27.7%、「リーダーシップがない」25.3%が双璧で、3番手は「政策が駄目」18.4%。◇与党支持も減、立民上昇 政党支持率は自民党が前月比1.4ポイント減の21.4%、公明党が同1.2ポイント減の2.5%。これに対し、立憲民主党は1.6ポイント増えて4.5%となった。3月の4.8%に次ぐ数値。以下、日本維新の会2.0%、共産党1.8%、国民民主党0.5%、れいわ新選組0.3%、社民党0.2%、嵐の党0.1%だった。「支持政党なし」は63.9%。調査は全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は62.9%。

五輪感染対策「十分でない」6割超 時事世論調査

時事通信 2021年07月16日 19時19分



国立競技場前に設置された五輪マークのモニュメント＝東京都新宿区（EPA時事）

時事通信の7月の世論調査で、東京五輪・パラリンピックでの選手や大会関係者の新型コロナウイルス感染対策について尋ねたところ、「十分ではない」が66.7%で、「十分だ」12.7%を大きく上回った。「どちらとも言えない・分からない」は20.6%。

調査は9～12日、全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は62.9%。

菅政権「9月まで」49.4% 「次の首相」石破氏トップ一時 時事世論調査

時事通信 2021年07月16日 19時12分



自民党の石破茂元幹事長＝2020年10月、東京・永田町の衆院議員会館

時事通信の7月の世論調査で、菅義偉首相に首相を続けてほしい期間を尋ねたところ、「今年9月末の総裁任期まで」が49.4%と最も多かった。「3年間の次の総裁任期満了まで」18.0%、「早く辞めてほしい」17.3%、「分からない」9.6%、「できるだけ長く」5.6%だった。

次の首相にふさわしい人物を尋ねたところ、自民党の石破茂元幹事長が14.9%でトップ。2位は河野太郎規制改革担当相14.5%、3位は小泉進次郎環境相8.8%と続いた。4位は安倍晋三前首相で8.4%。

5位は立憲民主党の枝野幸男代表5.0%で、6位の菅氏3.9%を上回った。他の閣僚では、加藤勝信官房長官は1.0%で9位、茂木敏充外相は0.6%で10位。

自民党支持層に限ってみると、首位は安倍氏で20.4%、河野氏17.5%、石破氏14.9%と続いた。菅氏は8.6%で5位だった。

調査は9～12日、全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は62.9%。

菅内閣支持、「危険水域」突入 大半の政権、回復せず退陣

時事通信 2021年07月16日 20時22分



首相官邸に入る菅義偉首相＝16日午前、東京・永田町

時事通信の世論調査で、菅内閣の支持率が30%を割り込み、政権維持の「危険水域」に突入した。2000年以降、この水準に達した大半の内閣が、支持率3割を回復できないまま退陣している。新型コロナウイルス対応に手を焼く菅義偉首相に効果的な政権浮揚策は見当たらず、危機感を強める自民党内からは、秋ま

での衆院選前に内閣改造・党役員人事を求める声も出始めた。

歴代内閣と危険水域

内閣	支持率3割割れ	退陣
森	2000年6月に18.2%	10カ月後
小泉	——	——
安倍	07年6月に28.8%	3カ月後
福田	08年4月に27.6%	5カ月後
麻生	08年12月に16.7%	9カ月後
鳩山	10年4月に23.7%	2カ月後
菅直人	10年11月に27.8%	10カ月後
野田	12年1月に28.4%	11カ月後
安倍	17年7月に29.9% (翌月回復)	3年2カ月後
菅義偉	21年7月に29.3%	?

(内閣支持率は時事通信世論調査による)

◇「青木の法則」

「世論調査で示された民意は真摯(しんし)に受け止めたい」。加藤勝信官房長官は16日の記者会見でこう強調。その上で「ワクチン接種をはじめとしたコロナ対策、経済立て直しに全力を尽くす」と語った。

菅内閣の支持率はこれまでも、新規感染者数の推移と連動してきた。4度目の緊急事態宣言にもかかわらず、16日の東京都は1271人と3日連続で1000人を超え、第5波の様相を呈す。ワクチン供給の停滞に加え、西村康稔経済再生担当相による飲食店への「圧力」なども、世論の反感を買ったとみられる。

支持率が30%を下回ると政権運営が困難になるのが過去の経験則だ。2000年4月発足の森内閣以降、小泉内閣を除く8政権が危険水域を経験。このうち7政権が再浮上できないまま退陣に至っている。

唯一の例外が、12年12月発足の2度目の安倍政権だ。「森友・加計」問題で批判を受けて17年7月に29.9%を記録したものの、同年10月の衆院選に大勝。持病の再発で20年9月に退くまで30～40%台を維持した。ただ、国内のコロナ感染が本格化した後の同年5月には、一部報道機関の世論調査で20%台に落ち込んでいる。

自民党の支持率低下も懸念材料となっている。昨年9月の菅政権発足時は26%余りだったが、その後はじりじり下がり、今月は21.4%だった。政界には、内閣支持率と政党支持率の合計が「50」を切ると政権維持が危うくなるという、青木幹雄元党参院議員会長が唱えた「法則」が存在する。今月は50.7で、これを割り込む可能性も出てきた。

◇総裁選先行論

首相は、東京五輪・パラリンピック「成功」の余勢を駆り9月上旬にも衆院解散に踏み切って勝利し、その後の自民党総裁選を無風で乗り切る算段とされる。だが、五輪はほとんどの会場で無観客開催となり、浮揚効果は限定的との見方が大勢。大会期間中に感染が広がる事態になれば、さらなる打撃は避けられない。

支持率好転が見通せず、政府・与党内からは悲鳴が漏れる。閣僚の一人は「このまま総選挙に入れば大惨敗は必至だ」と懸念。

自民党幹部は「さらに下がることもあり得る」と身構える。公明党関係者は「衝撃的な数字だ。戦略を練り直さないと大変なことになる」と危機感をあらわにした。

こうした状況を受け、自民党の閣僚経験者は「政権交代に至った麻生政権末期の雰囲気に近い。どこかで今のムードを変える必要がある」と人事刷新を主張。党関係者は「首相への嫌悪感がこれ以上強くなったら、衆院選より先に総裁選になるだろう」と予測した。

ただ、人事で刷新感を演出するのは容易ではない。自民党の二階俊博幹事長をはじめ、現在の政権中枢はいずれも、党内基盤の弱い首相の「後ろ盾」と言える存在で、交代は「政治的リスクが大きい」（関係者）ためだ。

総裁選の有力な対抗馬は見当たらないが、今回の世論調査の「次の首相にふさわしい人物」で、菅首相は3.9%の6位に低迷。「選挙の顔」としても不安を残した。

◇受け皿

野党は攻勢を強めている。立憲民主党の安住淳国対委員長は「菅政権への不信感が急激に広がっている」と強調。党幹部は「衆院選は大変動の予感がする」と衆院選での躍進に期待感を示した。

ただ、立民の政党支持率は今回こそ上昇したものの、野党第1党にもかかわらず5%に満たない状況が続く。このため、党内からは「政権批判の受け皿になり得ていない」（関係者）との指摘も出ている。

菅内閣の支持率30%、発足以来最低 毎日新聞世論調査

毎日新聞 2021/7/17 18:23 (最終更新 7/17 20:57)



閣議に臨む菅義偉首相 (右から2人目) = 首相官邸

邸で2021年7月16日午前10時2分、竹内幹撮影

毎日新聞と社会調査研究センターは17日、全国世論調査を実施した。菅内閣の支持率は30%で、6月19日の前回調査の34%から4ポイント下落し、2020年9月の政権発足以降で最低となった。不支持率は62%で、前回の55%から7ポイント上昇し、過去最悪となった。

働き掛け「問題あった」74%

菅政権の新型コロナウイルス対策を「評価する」と答えた人は19%で、「評価しない」の63%を大幅に下回った。「どちらとも言えない」は18%だった。「評価しない」と回答した層の9割弱が菅内閣を「支持しない」と答え、「支持する」は1割弱にとどまった。



内閣支持率の推移

政府は酒の販売事業者や金融機関に、酒の提供停止に応じない飲食店に対する働きかけを求めたが、批判を受けて撤回した。この対応に問題があったかとの質問では、「問題があったと思う」

との回答が74%で、「問題があったとは思わない」の13%を大きく上回った。「どちらとも言えない」は13%だった。「問題があった」と回答した層の7割強が内閣不支持だった。酒提供を巡る飲食店への対応は強権的と受け取られているとみられ、新型コロナ対応への不満と併せて内閣支持率の低下につながっているようだ。

23日に開幕する東京オリンピックについても聞いた。ほとんどの競技が無観客で開催されることについては、36%が「妥当だ」と答え、「観客を入れて開催してほしい」は20%だった。一方で、「延期か中止にしてほしい」が40%で最も多く、「わからない」は3%だった。

五輪を楽しみにしているかについては、「楽しみにしている」は35%で、「楽しむ気持ちになれない」の48%を下回った。「もともと楽しみにしていない」も17%あった。開幕が間近に迫っているが、世論の期待は高まっていない。

全国世論調査 質問と回答

数字は%。小数点以下を四捨五入。0は0.5%未満。一は回答なし。無回答は省略。前回調査は6月19日

菅内閣を支持しますか	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
支持する	30	34	31	28	29	30
支持しない	62	55	62	61	63	58
答えない	9	11	7	12	8	11

菅政権の新型コロナウイルス対策を評価しますか

評価する	19	21	21	17	17	23
評価しない	63	60	64	62	64	61
どちらとも言えない	18	18	15	21	19	16

東京オリンピックが23日に開幕します。東京オリンピックを楽しみにしていますか

楽しみにしている	35	—	35	34	35	34
楽しむ気持ちになれない	48	—	46	50	46	52
もともと楽しみにしていない	17	—	18	15	19	13

東京オリンピックはほとんどの競技が無観客で開催されます。これをどう思いますか

妥当だ	36	—	34	40	34	40
観客を入れて開催してほしい	20	—	23	15	20	19
延期か中止にしてほしい	40	—	40	41	42	36
わからない	3	—	3	5	3	5

東京オリンピック・パラリンピックを安全、安心な形で開催できると思いますか

できると思う	19	20	23	15	21	16
できるとは思わない	65	64	64	66	64	68
わからない	15	16	13	19	15	16

全

国世論調査 質問と回答

全国世論調査 質問と回答

数字は%、小数点以下を四捨五入。0は0.5%未満。—は回答なし。無回答は省略。前回調査は6月19日

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、政府は東京都に4回目の緊急事態宣言を発令しました。感染拡大を抑える効果があると思いますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
効果があると思う	16	—	18	14	16	17
効果があるとは思わない	66	—	66	66	68	61
どちらとも言えない	18	—	16	20	16	22

政府は、酒の提供停止に応じない飲食店に対する働きかけを酒の販売事業者や金融機関に求めたことが批判され、撤回しました。政府の対応に問題があったと思いますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
問題があったと思う	74	—	76	70	76	68
問題があったとは思わない	13	—	14	12	13	14
どちらとも言えない	13	—	10	19	11	18

日本のワクチン接種が順調に進んでいると思いますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
思う	27	27	29	24	29	22
思わない	56	52	55	59	55	58
どちらとも言えない	17	21	16	18	16	20

自分がワクチンの接種を受けられる状況になったらどうしますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
すぐに接種を受ける	50	57	51	49	50	50
急がずに様子を見る	15	24	15	15	17	12
すでに接種を受けた	29	12	29	29	27	33
接種は受けない	4	4	4	5	5	3
わからない	1	1	1	1	1	2

全国世論調査

査 質問と回答

全国世論調査 質問と回答

数字は%、小数点以下を四捨五入。0は0.5%未満。—は回答なし。無回答は省略。前回調査は6月19日

今年も各地で豪雨災害が発生しています。お住まいの地域で豪雨災害が発生する危険があると思いますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
危険がある	45	—	45	44	50	34
危険はない	37	—	38	37	35	43
わからない	17	—	16	19	15	22

菅義偉首相の自民党総裁としての任期は9月末までです。菅さんにいつまで首相を続けてもらいたいと思いますか

	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
できるだけ長く続けてもらいたい	14	15	17	10	14	14
自民党総裁の任期いっぱい続けてもらいたい	45	46	40	53	43	50
早く辞めてもらいたい	40	39	43	37	43	35

どの政党を支持しますか

政党	全体	前回	男性	女性	携帯	固定
自民党	28	30	30	24	26	32
立憲民主党	10	10	11	10	8	15
公明党	4	4	3	5	3	4
共産党	7	6	6	8	6	10
日本維新の会	6	6	7	5	7	5
国民民主党	1	1	2	0	2	0
社民党	1	1	1	1	1	1
れいわ新選組	1	2	1	1	2	0
嵐の党	0	1	0	—	0	—
その他の政治団体	2	0	1	1	1	3
支持政党はない	39	40	36	44	44	28

全国世論調査

査 質問と回答

調査の方法

社会調査研究センターと毎日新聞が7月17日、18歳以上を対象に携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)機能を使う方法を主体として調査した。コンピューターで無作為に数字を組み合わせた携帯電話と固定電話の番号に自動音声応答(オートコール)で電話するRDS法で対象者を抽出。携帯電話の場合は、調査を承諾した人にSMSで回答画面へのリンク情報を送付。固定電話の場合は、自動音声の質問にブッシュ番号で回答してもらった。目標サンプル数を携帯700件・固定300件に設定し、携帯746件・固定341件の有効回答を得た

全国世論調査・調

査の方法

菅義偉首相は「安全、安心な大会」の実現を強調しているが、安全、安心な形で開催できると思うかとの問いでは、「できると思う」との回答は19%にとどまり、「できるとは思わない」は65%に達した。

調査は、携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)機能を使う方式と、固定電話で自動音声の質問に答えてもらう方式を組み合わせ、携帯746件・固定341件の有効回答を得た。【伊藤奈々恵】

ワクチン接種「順調に進んでいない」56% 毎日新聞世論調査

毎日新聞 2021/7/17 18:54 (最終更新 7/17 21:26)



新型コロナウイルスワクチンの接種

を受ける男性＝東京都千代田区の手町合同庁舎で2021年6月17日午前11時43分、小出洋平撮影

毎日新聞と社会調査研究センターが17日に実施した全国世論調査では、新型コロナウイルスのワクチン接種についても聞いた。日本の接種が順調に進んでいると思うかとの質問では、「思わない」と答えた人が56%で、6月19日の前回調査の52%よりも4ポイント増加した。「思う」は27%で前回と同じだった。「どちらとも言えない」は17%(前回21%)だった。

政府は、7月末までに65歳以上の高齢者、11月末までに希望者全員の接種完了を目標に掲げるが、ワクチンの供給が滞り、接種予約を停止する自治体が相次いでおり、順調とは思えない人が増えているようだ。

接種状況について尋ねたところ、「すでに接種を受けた」は29%で、前回の12%、5月22日の前々回の3%から大幅に増えた。自分が接種を受けられる状況になったら「すぐに接種を受ける」との回答は50%(前回57%)で、「急がずに様子を見る」は15%(同24%)だった。「接種は受けない」は4%(同4%)、「わからない」は1%(同1%)だった。

政権はワクチン接種を感染収束の切り札と位置づけているが、「すでに接種を受けた」と回答した層で、菅内閣を「支持する」と答えたのは3割弱で全体の傾向と大きな差はなかった。

政府は7月12日、東京都に4回目の緊急事態宣言を発令した。宣言に感染拡大を抑える効果があるかとの問いでは、「効果があると思う」は16%にとどまり、「効果があるとは思わない」は66%に上った。「どちらとも言えない」は18%だった。宣言は8月22

日までで、今年に入って東京都で宣言の発令期間は全日数の約7割を占めている。緊急事態が半ば日常化し、効果が薄いと感じている人が多いようだ。

各地で豪雨災害が発生しているが、自分が住んでいる地域で豪雨災害の危険があると思うかとの質問では、「危険がある」は45%、「危険はない」が37%、「わからない」は17%だった。年代別にみると、「危険がある」と答えたのは、18歳から69歳までは4割を超えたが、70歳以上は3割を切った。

菅義偉首相の自民党総裁としての任期は9月末までだが、いつまで首相を続けてもらいたいかについては、「できるだけ長く続けてもらいたい」は14%（前回15%）にとどまり、「総裁の任期いっぱい続けてもらいたい」は45%（同46%）だった。「早く辞めてもらいたい」は40%（同39%）に上った。

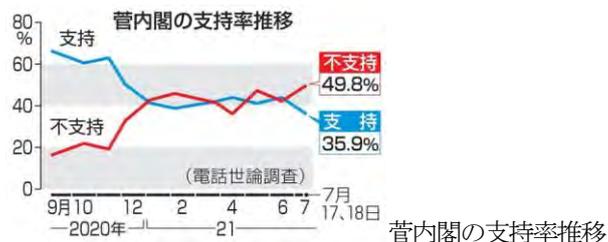
政党支持率は、自民党28%（前回30%）▽立憲民主党10%（同10%）▽共産党7%（同6%）▽日本維新の会6%（同6%）▽公明党4%（同4%）▽国民民主党1%（同1%）▽れいわ新選組1%（同2%）——など。「支持政党はない」と答えた無党派層は39%（同40%）だった。

また、携帯電話での回答者746人を対象に、次期衆院選の比例代表で投票したい政党名を一つ挙げてもらった。集計結果は次の通り。カッコ内は6月の前回調査。

自民党25%（23%）▽立憲民主党13%（12%）▽共産党8%（5%）▽日本維新の会6%（6%）▽公明党3%（4%）▽れいわ新選組2%（2%）▽国民民主党2%（1%）▽社民党1%（1%）▽嵐の党1%（0%）【伊藤奈々恵、大隈慎吾】

菅内閣支持35%で最低 8ポイント急落、不支持は49%

2021/7/18 21:08 (JST)7/18 22:38 (JST)updated 共同通信社



共同通信社が17、18両日に実施した全国電話世論調査によると、菅内閣の支持率は35.9%で6月の前回調査から8.1ポイント急落し、昨年9月の内閣発足以降最低となった。不支持率は49.8%で菅内閣として最も高く、支持率を13.9ポイント上回って逆転した。東京五輪・パラリンピックにより新型コロナウイルス感染が拡大する不安を聞いたところ、「ある程度」を含め「不安を感じている」との回答が計87.0%に上った。

新型コロナワクチン接種に関する政府対応に「不満を感じている」は58.5%だった。

回答は固定電話538人、携帯電話527人。

菅内閣支持率、過去最低の31%に 朝日世論調査

朝日新聞デジタル7/18(日) 22:39 配信

朝日新聞社は17、18日に全国世論調査（電話）を実施した。菅内閣の支持率は31%（前回6月は34%）に下がり、昨年9月の発足以降、最低となった。不支持率は49%（同42%）。内閣支持率

は男性35%に対し、女性が27%と特に低い。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、政府のコロナ対応を「評価しない」が65%（同55%）に達し、「評価する」26%（同32%）を大きく上回った。自民支持層でも「評価する」は44%で、「評価しない」49%の方が多かった。「評価しない」人の内閣支持率は17%で、不支持率は67%だった。新型コロナのワクチン接種を巡っては、供給不足で接種の予約を停止する自治体や職場が相次いだ。この問題に対する「政府の責任は大きい」は63%に達し、「それほどでもない」は32%だった。ワクチン接種に対する政府の取り組みへの評価は「大いに」7%と「ある程度」47%を合わせた「評価する」が54%で、「評価しない」は「あまり」33%、「全く」11%を合わせて44%。「評価する」は6月の調査の60%から下がった。

菅内閣の支持率、「危険水域」の20%台まで下落

ハンギョレ新聞7/17(土) 8:09 配信

時事通信の世論調査、発足後初めて30%割り込む

菅義偉内閣の支持率が20%台まで落ち込んだという世論調査の結果が出た。日本で支持率20%台は総理交代や内閣総辞職に至る「危険水域」とされる。時事通信の16日付報道によると、今月9日から12日にかけて、全国の18歳以上の男女2000人（回答率62.9%）を対象に行った世論調査の結果、菅内閣支持率は29.3%で、昨年9月の内閣発足以降、初めて30%を割り込んだ。前月の調査に比べ、支持が3.8ポイント下がった一方、不支持は5.6ポイント上昇した49.8%に達した。時事通信の世論調査で内閣支持率が危険水域の20%台に落ちたのは、安倍晋三元首相時代の2017年7月以来4年ぶり。当時、安倍前首相の近い知人が理事長を務める私学法人に特恵を与えたと疑惑がもたれたいわゆる「加計学院問題」で、安倍内閣の支持率は急落した。同通信は首都東京に4回目の緊急時代宣言が発令され、「日常生活に制約が続く不満や五輪開催への懸念が支持率に影響したとみられる」と報じた。支持率が20%台に落ち込んだからと言って、必ずしも内閣が崩壊するわけではないが、赤信号であることは間違いない。日本では、政権末期の内閣支持率が30%を割り込むケースが多かった。NHK世論調査では2012年12月の野田佳彦内閣（20%）や2010年5月の鳩山由紀夫内閣（21%）、2009年9月の麻生太郎内閣（15%）が30%以下の支持率で幕を閉じた前例がある。時事通信の世論調査では、菅首相にいつまで総理職を続けてほしいかという質問に対し、回答者の半数に近い49.4%が「今年9月末の（自民党）総裁任期まで」と答えた。「3年間の次の総裁任期満了まで」と言う回答は18%にとどまった。「早く辞めてほしい」と答えた人も17.3%に達した。チョ・ギウォン記者（お問い合わせ japan@hani.co.kr）

菅内閣の支持率、最低値に…自民党内から「総選挙前の内閣改造を」の声も

聯合ニュース登録:2021-07-14 09:42 修正:2021-07-14

読売新聞の世論調査、支持率37%

「支持しない」53%は発足以降最高値

NHKの調査でも支持率33%で最低

総選挙を控え、自民党の危機感高まる



日本の菅義偉首相/AP・聯合ニュース

菅義偉内閣支持率が低迷しており、自党内で危機感が高まっている。日本政府の新型コロナウイルス対策や4回目の緊急事態宣言で東京五輪を強行することへの不満が反映された結果とみられる。

読売新聞は13日付けの紙面で、9～11日に全国18歳以上1068人（回答者）を対象に実施した電話世論調査で、菅内閣支持率が37%を記録したと報じた。同紙の世論調査基準で菅内閣の支持率は先月、発足以来最低の37%を記録したが、今月の調査でも同じ数値だった。

「支持しない」という回答は53%で、同紙の調査基準では昨年9月の菅内閣発足以来、最高値を更新した。先月の調査の50%から3ポイント上がった数値だ。同紙は支持率が低迷する背景に「新型コロナ対策や五輪対応への不満」を挙げた。

NHKが9～11日に全国18歳以上1224人を対象に実施した電話世論調査でも、菅内閣支持率は33%で、同放送の調査基準で最低値を記録した。先月の調査と比べて4ポイント支持率が下がった。「支持しない」という回答も46%で、先月の調査に比べ1ポイント上がり最も高くなった。

同放送の世論調査で菅内閣を支持しないと答えた回答者は、その理由として、「実行力がないから」が40%、「政策に期待が持てないから」が36%、「人柄が信頼できないから」が13%などを挙げた。

菅政府は遅くとも今秋には総選挙を行わなければならない。下院議員にあたる衆議院の任期は10月21日までだが、菅首相はその前までに選挙の日を決めなければならない。

総選挙を目前に控えて支持率が低迷し、自党内の主要関係者からも公に危機感を示している。石破茂・元幹事長は「自民党の好感度がかなり下がっている」と述べた。岸田文雄・前政調会長は「自民党の体質や『上から目線』の言動に国民は嫌気がさしている」と述べたと、読売新聞が報じた。自民党のある中堅議員は「このままでは衆院選を戦えない。衆院解散前に内閣を改造し、刷新感を出してほしい」と述べたという。

最大野党の立憲民主党は、菅内閣批判を強化し、衆議院選挙に備えている。しかし、NHKの世論調査で立憲民主党の支持率は6%と依然として低い。自民党支持率は34.9%で、「特に支持する政党がない」という無党派が41.9%で最も多かった。

チョ・ギウォン記者（お問い合わせ japan@hani.co.kr）

コロナが拡散しているのにオリンピックを推し進めた菅首相…支持率が20%台に急落＝韓国報道

wowkorea2021/07/16 22:00 配信



コロナが拡散しているのにオリンピックを推し

進めた菅首相…支持率が20%台に急落＝韓国報道（画像提供：wowkorea）

菅義偉内閣の支持率が20%台に急落した。コロナの拡散に十分に対応できず、東京オリンピックを強行したことで、民心を失ったものと分析される。

時事通信が9～12日にかけて全国有権者2000人（有効回答回数率62.9%）を対象に面接方式で行った世論調査で、菅内閣の支持率は先月の調査時と比べて3.8ポイント下がった29.3%を記録したと報じた。支持しないという回答の割合は5.6ポイント増えて49.8%まで上がった。

日本全域の有権者を対象にした主要メディアの世論調査で、昨年9月に発足した菅内閣の支持率が30%を下回ったのは今回が初めてだ。内閣支持率が30%台を下回ったのは、安倍晋三元首相在任当時、加計学園スキandalが起きた2017年7月以来、4年ぶりのこととなる。

議院内閣制国家である日本では、内閣支持率が20%になると、国政遂行力を事実上喪失した段階に入ったと考えられる。昨年9月の発足初期には、一部メディアによる世論調査で菅内閣に対する支持率は最高で70%台を記録していた。

菅内閣は4度目の緊急事態を宣言しながらも東京オリンピックを強行した点が民心離反の主な原因に挙げられている。これに先立ち3度目の緊急事態を宣言し、オリンピックを中止すべきだという世論が急浮上したが、菅首相は23日、予定どおり東京オリンピックを開催する予定だ。

菅内閣支持率、発足後初めて3割切る一ワクチン「遅い」7割

ブルームバーグ延広絵美 2021年7月16日 15:40 JST 更新日時

2021年7月16日 17:56 JST
不支持率は49.8%に増加、「真摯に受け止めていきたい」と官房長官

政党支持率は自民が21.4%で公明も下落、立憲は4.5%に増加



菅義偉首相

菅義偉内閣の支持率が、7月の世論調査で29.3%となったと時事通信が16日報じた。政権運営が困難な「危険水域」といわれる3割を発足後初めて下回った。

調査は9～12日に実施した。支持率は前回6月の調査から3.8ポイントの下落だった。不支持率は49.8%で5.6ポイント増加した。

菅首相が感染対策の「切り札」と位置付けるワクチン接種の進展に関しては、「遅い」が71.5%と、「順調」の17.7%を大きく上回った。

加藤勝信官房長官は記者会見で、支持率には「一喜一憂はしない」としながらも、調査で示された民意を「真摯（しんし）に受け止めていきたい」と語った。

東京五輪開幕が1週間後に迫るが、緊急事態宣言下の都内では連日1000人超の新型コロナウイルス感染者が確認されている。一部自治体でのワクチン供給不足や酒類の取引停止要請を巡る混乱でも批判の声が多く、菅政権は苦境に追い込まれている。

政党支持率は自民党が前月比1.4ポイント減の21.4%、公

明党が同 1.2 ポイント減の 2.5%と与党がそろって下落した。一方で立憲民主党は、1.6 ポイント増の 4.5%となった。

菅首相、支持率低下は「いろんな理由」 政権の「危険水域」に陥った調査も

日刊スポーツ[2021年7月17日11時17分]

菅義偉首相は17日午前、読売テレビの報道番組「ウェークアップ」に生出演した。各社世論調査で内閣支持率が下落していることについて問われ「理由はいろんなものがあると思うが、謙虚に受け止め、国民と約束したことを実行に移していきたい」と述べた。

菅内閣の支持率をめぐっては、16日に時事通信社が発表した世論調査で、支持率が29.3%と、昨年秋の政権発足後最低になった。加えて初めて3割を切ったことが、政府与党内で衝撃をもって受け止められた。

というのも、永田町では、内閣支持率の3割割れは「危険水域」と呼ばれるためだ。「過去の内閣をみても、支持率が3割を割り込むと退陣へのカウントダウンが始まる。菅内閣はその領域に足を踏み入れたことになる」（自民党関係者）。時事通信の調査では自民党への支持も減少している。

新型コロナウイルス対応や東京オリンピック（五輪）・パラリンピック開催の是非をめぐり、国民感情に寄り沿おうとしない首相や政権の姿勢には、有権者の厳しい視線が注がれている。西村康稔経済再生担当による「酒類提供停止発言」のドタバタ撤回も、国民の猛烈な批判があったからだ。

今秋には自民党総裁選や衆院選が行われるが、昨年9月の菅政権発足後、今月4日に投票された東京都議選をはじめ、重要な選挙で自民系の連戦連敗が続く。衆院選で首相が自民党を率いる「選挙の顔」になり得るのか、党内からも厳しい声が出始めている。

内閣支持 29.3%、発足後最低 時事世論調査

日経新聞 2021年7月16日 20:35



閣議に臨む首相ら（16日、首相官邸）=共同

菅首相は

時事通信が9～12日に実施した7月の世論調査で、菅内閣の支持率は前月比3.8ポイント減の29.3%で、不支持率は5.6ポイント増の49.8%となった。政権発足後、支持率が3割を切り「危険水域」とされる20%台に落ち込むのは初めて。逆に不支持率は最高となった。

支持率3割割れは「加計学園」問題で安倍政権が揺れていた2017年7月以来4年ぶり。

政府は今月8日、東京都に4回目の緊急事態宣言発令を決定し、酒類提供店に対する「圧力」問題も起きた。日常生活に制約が続く不満や五輪開催への懸念が支持率に影響したとみられる。菅内閣の従来の最低値は3度目の緊急事態宣言の期間延長、対象拡大が決まった5月の32.2%。

新型コロナウイルス感染拡大をめぐる政府対応は、「評価しない」が前月比4.0ポイント増の59.1%、「評価する」は同0.5ポイント減の22.7%。「どちらとも言えない・分からない」は18.2%だった。

菅義偉首相が感染対策の「切り札」と位置付けるワクチン接種の進捗に関しては「遅い」が71.5%と、「順調」の17.7%を大きく上回った。「どちらとも言えない・分からない」は10.8%。

内閣を支持する理由（複数回答）は「他に適当な人がいない」が最多の12.1%。「首相を信頼する」7.8%、「首相の属する党を支持している」4.4%が続いた。支持しない理由（同）は「期待が持てない」27.7%、「リーダーシップがない」25.3%で、3番手は「政策が駄目」18.4%。

政党支持率は自民党が前月比1.4ポイント減の21.4%、公明党が同1.2ポイント減の2.5%、立憲民主党は1.6ポイント増えて4.5%となった。3月の4.8%に次ぐ数値。

以下、日本維新の会2.0%、共産党1.8%、国民民主党0.5%、れいわ新選組0.3%、社民党0.2%、嵐の党0.1%だった。「支持政党なし」は63.9%。

調査は全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は62.9%。

菅内閣の支持率について危険水域に突入 “青木割れ” 目前で自民震撼！

日刊ゲンダイ 7/17(土) 16:02 配信

とうとう「危険水域」に突入だ。時事通信が9～12日に実施した7月の世論調査で、菅内閣の支持率が前月比3.8ポイント減の29.3%に落ち込んだ。低空飛行が続いていた支持率だが、「危険水域」とされる20%台に落ち込むのは政権発足後、初めて。不支持率は5.6ポイント増の49.8%に上昇した。菅首相が大好きな「東洋の魔女」に込められた時代遅れな思い「時事通信の世論調査は個別面接方式で信頼性が高い。支持率を気にする菅総理は、時事とNHKの世論調査を重視しているというから、この数字はショックでしょう。党内では“青木の法則”が話題になり、秋までの総選挙を控えて浮足立っています」（自民党関係者）

「青木の法則」とは、“参院のドン”と呼ばれた自民党の青木幹雄元官房長官が唱えたもので、内閣支持率と与党第1党の支持率の合計が50%を割ると、その内閣は倒れるというもの。今回の調査では、自民党の政党支持率も前月比1.4ポイント減の21.4%に下がった。内閣支持率29.3%と足して50.7%と“青木割れ”は目前だ。新型コロナウイルス対策、五輪強行、ワクチン停滞、飲食店への圧力問題……。この内閣を支持できない理由は数え上げればキリがない。五輪開催でコロナ感染拡大が悪化すれば、さらなる支持率下落は必至。選挙を控えた自民党議員が「菅降ろし」に走る可能性がある。五輪を花道に退陣のシナリオも囁かれ始めた。■不人気首相で総選挙になだれ込む可能性「菅首相では選挙を戦えないという声は以前からある。実際、春の補選・再選挙から知事選、都議選と、ことごとく選挙で勝てない状況が続いています。しかし、総選挙前に菅首相を強引に引きずり降ろすことはできないでしょう。いまの自民党にそんなエネルギーはないし、党内抗争でゴタゴタすれば、ますます支持率が下がりがかねない。有力な“ポスト菅”も存在しません。野党がしっかりして

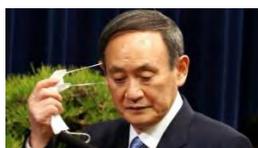
いけば政権交代もあり得る場面ですが、野党の支持率も上がっていない。だらしないう野党と、党内に対抗馬がないことに救われて、菅政権がダラダラ続き、不人気首相のまま総選挙になれ込む可能性の方が高そうです(政治ジャーナリスト・山田厚俊氏) 時事調査によれば、菅氏に首相を続けてほしい期間は「今年9月末の総裁任期まで」が49.4%と最多。「早く辞めてほしい」は17.3%で、全体の3分の2が、9月までには退陣してほしいと考えている。 数カ月後の総選挙は、その民意を示すチャンスだ。

論点ぼかすNHKニュースの摩訶不思議～「支持率最低」を明示しない菅内閣への付度ぶり～

Yahoo ニュース鈴木祐司 | 次世代メディア研究所代表/メディア



アナリスト 7/18(日) 8:54



(写真:代表撮影/ロイター/アフロ)

菅内閣の支持率が急落している。

7月13日の読売新聞オンラインは「菅内閣の支持率37%、不支持率は過去最高53%」のタイトルだった。

16日の時事ドットコムは「菅内閣支持29.3%、発足後最低 初の3割割れ」。17日の毎日新聞は「菅内閣の支持率30%、発足後最低」の見出しだった。

ところが12日のNHKだけ、「世論調査/菅内閣 支持33% 不支持46%」と数字が羅列されるだけで、キーワードの「最低」や「最高」の表記がない。

ニュースとは、新たに起こった出来事を伝える営みだ。

どんな意味があるかなどを掘り下げることで、人間性・社会性・地域性・国際性などで価値判断がされると、日本新聞協会は解説している。

ところが価値判断を示さないNHKニュースは、あえて論点をぼかそうとしているように見える。

前提には菅内閣への付度があり、その傾向が増す一方なのではないだろうか。

ニュースタイトルに「最低」なし

NHKは7月9日(金)から3日間、全国で7月の世論調査を行った。

菅内閣を「支持する」と答えたのは、6月より4ポイント下がって33%と菅内閣発足以来「最低」となった。一方、「支持しない」は1ポイント上がって46%と発足以来「最高」となった。



この世論調査の結果は12日の『ニュース7』で放送されたが、伝え方に不可解な点があった。

アナウンサーのコメントでは「菅内閣を支持すると答えた人は、

先月より4ポイント下がって33%と、去年9月の発足以降最も低くなりました」と伝えている。ところが画面のニュースタイトルは「世論調査/菅内閣 支持33% 不支持46%」と数字が羅列されるだけで、キーワードの「最低」「最高」の表記はない。

うっかり聞き漏らすと「最低」は頭に入らないし、印象にも残らない。

このタイトルは『ニュースウオッチ9』も全く同じで、NHKのメインニュースは歩調をそろえていた。

NHKニュースの世論調査は数字の羅列が定番かというところでもない。

7月調査の前、「最低」だった5月の世論調査の『ニュース7』(5月10日)は、タイトルで「菅首相の顔写真/支持率35% 発足後最低」と「最低」を表記していた。

今回の7月調査でも、WEBニュースは「菅内閣 『支持』33% 内閣発足以降最も低く 『不支持』は46%」とポイントを外さないタイトルとなっている。

内閣支持率の世論調査で、何がニュースかを判断するのは報道機関として1丁目1番地の仕事だ。

冒頭で紹介したように、新聞社や通信社はどこも「最低」や「最高」と数字の位置づけを行ない、わかりやすいタイトルとしている。

最も多くの視聴者が見る『ニュース7』などのメインニュースで、タイトルを数字の羅列にするのは何らかの意図があるのではと、思ってしまう。

深刻な「菅内閣支持率」の低迷

なぜNHKのメインニュースは、目立たないタイトルを使ったのか。

NHKの世論調査で、菅内閣に対する「不支持」が「支持」を上回るのは5回目だが、「不支持」が「支持」を13ポイントと2桁も上回ったのは初めてだ。菅内閣にとっては大きな痛手だろう。

今回のNHK世論調査では、菅内閣にとってマイナスとなる調査結果が他にもある

○ オリンピック東京大会を開催する意義や感染対策についての政府や組織委員会などの説明に、「あまり納得していない」と「まったく納得していない」が合計65%。

○ 政府が東京都に出した4回目の緊急事態宣言の効果は、「あまりない」と「まったくない」を合わせて56%。

NHK報道のOBは「支持率も政策の評価も厳しい中で、『支持率最低』は目立たないようにしようというNHKの政権への付度がいっそう進んだのではないかと疑っている。

「ワクチン接種進捗」の評価が消えた

コロナを巡る状況を一挙に変えるのが「ワクチン」と言われてきた。

日本のワクチン接種は、欧米に比べてスタートが遅れたが、菅首相の“お声がかかり”で接種が次第に拡大し、NHKニュースも各地のワクチン接種の状況を詳しく伝え続けた。

その際には「ワクチンを射って安心した」という旨のインタビューが付くことが多かった。

NHKは5月から世論調査でも「ワクチン接種進捗の評価」を質問項目に加えた。

その5月は「順調だ」9%・「遅い」82%だったが、6月は「順調

だ」24%「遅い」が65%と「順調だ」が伸びてきていた。ところが7月は質問自体がなくなってしまった。

ワクチン接種については、6月末から7月にかけて変化が生じていた。

ワクチン配分が目途が立たないなどとして、職域接種の申請受付を一時停止したのである。一部の自治体でも、予約の停止などが起きていた。

「世論調査の質問項目から無くなったのは、こうした現状を踏まえて『順調だ』が減少するのを避けようとしたとみられても仕方あるまい。政権への“腰の引けかた”も中途半端ではない」と報道OBはいう。

付度の重症化はNHKの組織ぐるみ？

これまでも本稿では、NHK世論調査の政権への付度ぶりや菅首相の記者会見、ぶら下がり発言の異常な扱いを度々指摘してきた。やはり変だぞNHKニュース～オリパラ・森発言・内閣支持率・・・世論調査の扱い恣意的過ぎ!?!～（2月11日）

理由なき内閣支持率上昇の意味～政治もメディアも劣化の一端!?!～（4月15日）

NHKニュースの露出過多で増幅 コロナ・五輪で菅発言の空疎感（6月1日）

国民はうんざり 菅首相のニュース7占拠 ～NHK付度報道で接触率半減!～（7月10日）

今回7月の世論調査でもその傾向は続き、付度の疑いは深まるばかりだ。

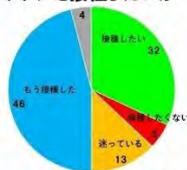
報道のOBは「これだけの異常なニュース報道の重症化は、会長以下役員が関与せずに行えるはずはない」と話す。

公共放送の「自主自律」はお題目だけで、ニュース報道の実態は既に別の世界になっているのではないだろうか。そして現場は、その状況に諦めムードになってしまっているのではないだろうか。

それを象徴するチョンボが今回の世論調査にあった。

「ワクチン接種をしたいか」という質問に対して、「接種したい」32%・「接種したくない」5%・「迷っている」13%に続いて、「もう接種した」が46%と最大になった。

ワクチンを接種したいか



NHK世論調査データから作成

この世論調査が実施されたのは、7月9日からの3日間。

NHK特設サイト「新型コロナウイルス」によれば、この時点で「ワクチン 少なくとも1回接種した人」の割合は約30%だった。世論調査の「もう接種した」46%との差は、誤差というにはあまりに大きい。

日本国内の65歳以上ワクチン接種率は、この時点で「1回目」約75%・「2回目」約50%だったので、今回の世論調査の回答者は、高齢者の割合がかなり高かったという疑いがある。

ニュースが出た途端、SNS上ではそれを疑うツイートがたくさん出た。

「これ、回答者お年寄りばかりじゃない？」

「サンプリングは標準からずれてる。正確な調査ではないようだ」

「ってことは答えてる人は高齢者が多いってことよね。全世代で見たら内閣の支持率をもっと低いんじゃないか?と思った」

素人でも直ぐに気づく回答の矛盾だ。

世論調査を実施したNHKの担当者が気づかないはずがない。わかっているのに何の説明もせずそのまま出してしまうとは、現場で何が起きているのだろうか。

まさか16%ほどの差は、誤差の範囲で許容されるとは考えていないだろう。

不味いと思ったが、もはや正しい報道をする気力が失せてしまっているのか。それとも上司に相談したが、「そのまま放送しろ」と言われて諦めたのか。

支持率で「最低」を明示しない姿勢と通じないか。

そのNHK世論調査では、「新型コロナ 感染の不安」で79%が不安を感じている。「政府の対応」に対しては、57%が評価しないと答えている。そして「安心安全」と強調する東京五輪の「開催意義などの説明」も、65%が納得していない。

数字を羅列するだけ。位置づけ・解説・説明をしない。さらに明らかな矛盾があっても無視する。

全ては政権への付度が起点となっていないか。

こんな異常な報道が続けば、菅内閣の支持率が「最低」となるばかりか、公共放送NHKへの支持も地に落ちるばかりだ。



鈴木祐司次世代メディア研究所代表／メディアアナリスト
愛知県西尾市出身。1982年、東京大学文学部卒業後にNHK入局。番組制作現場にてドキュメンタリーの制作に従事した後、放送文化研究所、解説委員室、編成、Nスペ事務局を経て2014年より現職。デジタル化が進む中で、メディアがどう変貌するかを取材・分析。特に既存メディアと新興メディアがどう連携していくのかに関心を持つ。直近の制作番組では、テレビ60周年特集「1000人が考えるテレビ ミライ」、放送記念日特集「テレビ60年目の問いかけ」（共に2013年）。著作には「放送十五講」（2011年、共著）、「メディアの未来を探る」（2014年、共著）。津田塾大学では計算機科学研究所にて客員研究員を拝命中。